

祈りによる学生の意識変化について

—広島女学院大学の場合—

前 田 美和子*

(2013年11月13日 受理)

About the Alteration of the Consciousness of Prayer

— In the Case of Hiroshima Jogakuin University —

Miwako MAEDA*

The author has attempted to share a time of prayer with students in her classes.

According to the results of research through inquiry about the impression of this prayer time, a significant change of consciousness was found in every class at the end of each semester.

The result shows that the students have come to have a positive understanding of Christianity and compassion toward others. A desirable alteration of the contents of prayers was also observed.

We find that prayer has some effect to calm mind of students and students were led to think of prayer as a precious process to care about others.

Keywords: Prayer 祈り, Study of Christian Education キリスト教教育, Attitude survey 意識調査

1. はじめに

広島女学院大学は建学の精神であるキリスト教主義を教育の柱としており、アドミッションポリシーにも「キリスト教主義に基づく倫理観をもち、他者に対して思いやりを持つことのできる人」を第一に掲げ、また学則第一条には「本学は、基督教主義に基づいて教育を施し、女子の霊性、知性、徳性の円満な発達をはかり、専門的な学術の修得を努めさせると共に、広い教養と高い人格を育成することを目的とする¹⁾」と記されている。

キリスト教はユダヤ教とともに「祈りの宗教」とされ、祈りを重要視してきた²⁾。旧新約聖書の中には族長や預言者、イエス、使徒たちをはじめ、多くの人物が神に祈りを捧げている様が記されている³⁾。また、イエスが弟子たちや人々に祈ることを奨励しているさまも記されており⁴⁾、今日の教会における礼拝や、信徒の日常生活においても、イエスが人々に示された「主の祈り」をはじめとし、祈りは欠くことのできない宗教的行為である。

上記の学則第一条にある霊性の獲得は、決して単なる座学による知識によってのみ得られるものではない。

そのため、本学では初年次必修科目である「キリスト教学入門Ⅰ・Ⅱ」に加えて、いわゆるチャペル・アワー(学校礼拝)である「キリスト教の時間」や木曜日チャペル、および、ボランティアセンターでの活動などを通して、学生たちにキリスト教に基づく人間理解と、社会における自身の働きを考え実行に移す、環境と機会とを提供している。

筆者はこれに加え、「祈りの宗教」とされているキリスト教の祈りの実践をもって、学生たちによりキリスト教主義に基づく倫理観や他者に対する思いやりを培うことが可能なのではないかと考え、「キリスト教学入門Ⅰ・Ⅱ」の授業開始時に祈りの時をもつことを試みてきた。

本論文では、この試みによって学生たちの意識や活動に変化がみられたのか、変化があったとすればどのような変化が生じたのか、また、キリスト教主義による教育、特に祈りによって、学生がどのような影響を受けているのかを、明らかにしていく。

2. 調査方法

(1) 調査時期

2013年度春学期最終講義日(7月)、2013年度秋学期講

* 広島女学院大学人間生活学部幼児教育心理学科専任講師

義開始日（9月）。

（2）調査対象

キリスト教入門Ⅰb・fおよびキリスト教入門Ⅱb・fの受講生、幼児教育心理学科96名、国際教養学科44名の合計150名。

（3）質問紙法によるアンケート調査、アンケート質問事項

1）7月実施

1. 授業前のお祈りの時間を取ることをどう思いますか？
2. それはなぜですか？
3. 4月の段階で、授業開始時の祈りをどのように思っていましたか？
4. 4月と7月の段階で意識の違いがある場合、それはいつ頃から変化しましたか？
5. 現在、祈ることをどのようにとらえていますか？
6. 入学当初から比べて、祈りに対する意識や行動の変化（例：たまに一人でも祈るようになった等）はありますか？

2）9月実施

1. 宗教を問わず、「祈り」について大学入学前に抱いていたイメージや考えを教えてください。
2. キリスト教の「祈り」について今現在抱いているイメージや考えを教えてください。
3. それは他宗教の祈りとは異なるイメージや考えですか？「はい」「いいえ」に○を付けた後、具体的なイメージや考えを教えてください。
→○をつけてください（はい・いいえ）
4. 1と2の間の考えに違いがある場合は、なぜそういった違いが生じたと思いますか？
（例：授業やキリスト教の時間で祈りにふれて、授業等で祈りの意味を知ったから等）
5. 神社や仏壇、神棚等、宗教施設や宗教に関するものに対して、これまでどういったことを祈ってきましたか？（キリスト教は除く）書ける範囲で教えてください。
（例：受験に合格しますように、健康第一、恋愛成就等）
6. 人生に悩んだ時に、次のような人に相談したいと思いますか？相談したいような人に○を付けてください。

- ①仏教の僧侶 ②キリスト教の牧師・神父・シスター
③神社の神主 ④テレビに出るような霊能者
⑤街の占い師 ⑥ネット上で相談に回答してくれる人
⑦その他の宗教家（具体的に）

3. 考察

キリスト教にとって祈りは神との対話・交わりであり、具体的に成文祈祷と自由祈祷がある。成文祈祷は主の祈り⁵⁾のように祈りの言葉が決まっている祈りのことである。それに対し、自由祈祷は各自が自分の言葉をもって自由に祈る祈りである。自由祈祷の中には、受けた恵みに対する感謝を祈る感謝の祈り、神をほめたたえる賛美の祈り、反省する懺悔の祈り、自分以外のものに対して祈る執り成しの祈りがある。

今回の試みは、学生が強制的に祈らされているという意識を持つことなく主体的に祈りに関わることを期待し、また、イエスがユダヤ教の伝統的な型にはまったものではなく、自由な形式の祈りを追及していたことの二点から、自由祈祷で行うことにした。

始業時における祈りは4月の授業開始日から始めた。しかし、キリスト教を含む特定の宗教を強制するつもりはないため、祈りは決して強制ではないこと、キリスト教の祈りに違和感を覚えたり、祈りたい気分ではない者は無理に祈る必要はないこと。しかし、他者の祈りへの配慮として、物音をたてず、静かにしていることを求め、祈りの最後の「アーメン」¹⁾は、祈りの内容に心から同意出来る場合に一緒に言って欲しいことの4点を、毎時間祈る直前に説明した。

祈りの内容は第1回目の授業を除き、学生の希望する事柄を祈った。すなわち、前回の授業の出席カードのコメント欄に、次週皆と一緒に祈りたい事柄があればその内容を記して提出してもらった。また、クラスの者と祈りを共有することに抵抗感を感じるが、授業担当者に個別に祈って欲しい事柄があればその旨を書いた上で提出してもらった。なお、祈りの際、学生の氏名等は明かしていない。

幼児教育心理学科のクラスでは、毎週クラスで祈りたいことを書いたものが必ず複数枚あったが、国際教養学科のクラスでは、クラスメイトと一緒に祈りたいことが書かれていない週もあり、その場合は授業担当者が自由に祈祷した。

（1）祈ることへの意識について

1）4月当初の意識

7月に行ったアンケートによると、4月当初の祈りに対する印象は、幼児教育心理学科の場合、「戸惑った」「長い」「抵抗があった」という感想だけでも55%を占め、他にも否定的な考え方が目立った。肯定的な意見としては「キリスト教の授業というスイッチが入る」、「ワクワクした」、「感動した」の3点があったが、11%にすぎなかった（図1）。

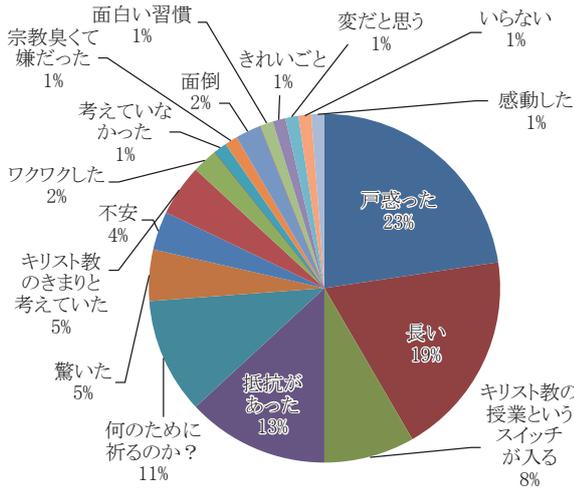


図1 4月当初の意識 (幼児教育心理学科)

一方、幼児教育心理学科では「戸惑った」、「抵抗があった」、「長い」の3点で過半数を超えたのに対し、国際教養学科では、この3点だけに注目すると35%と3割弱であった。また「キリスト教の授業というスイッチが入る」「ワクワクした」といった肯定的な意見は24%であり、4月の段階では幼児教育心理学科に比べ、国際教養学科の学生の方が祈りに対して比較的肯定的であったことがわかる。

前述の通り、国際教養学科は祈って欲しい事柄を誰も書かない週もあり、その際は授業担当者が自由祈祷を行った。そういった場合、祈る事柄が少なかったため、必然的に祈る時間も短くなり、「長い」と感じた学生が少なかったのだろう (図2)。

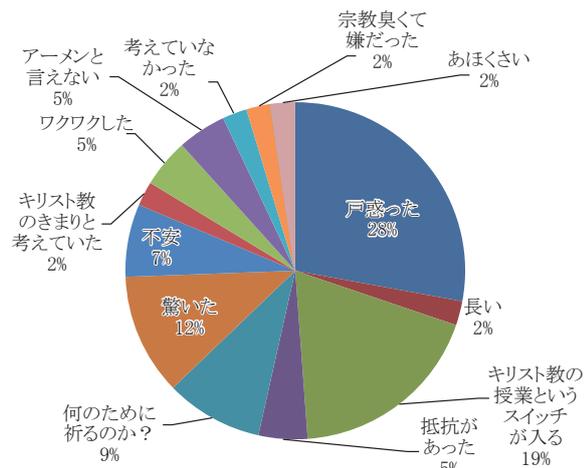


図2 4月当初の意識 (国際教養学科)

2) 春学期終了時の意識

春学期には15回の授業があったため、学生たちとは春学期の間に15回の祈りの時をもったことになる。このアンケートは15回目に祈った直後にとったものであるが、

ここで4月に抱いていた祈りに対する印象と大きな意識の変化が見られる。

15回目の祈りの後では、幼児教育心理学科では96%の学生が祈りに対して肯定的な意識をもつようになっており (図3)、国際教養学科でも93%の学生が肯定的な意識をもつようになっていることがわかる (図4)。

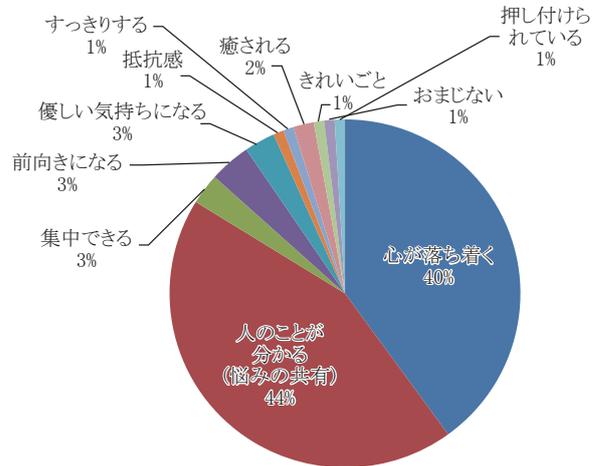


図3 春学期終了時の意識 (幼児教育心理学科)

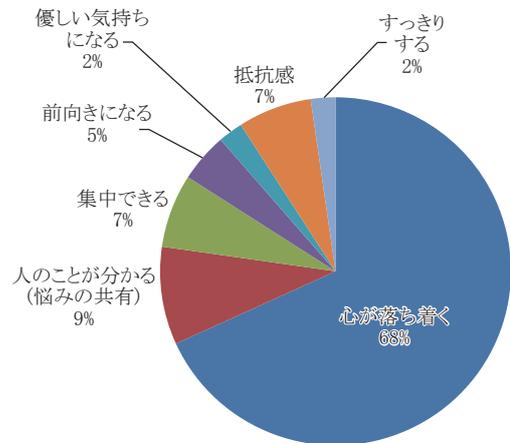


図4 春学期終了時の意識 (国際教養学科)

3) 意識の変化について

表1はいつから授業開始時の祈りを受け入れることができたかを問うた結果であるが、約半数の学生が5~6月、およそ5回~7回目の授業の間に祈りに対して肯定的に感じるようになってきていることわかる (表1)。

また、秋学期からの授業でも授業開始時に祈りの時を持ち続けることに対して、この段階で多くの学生が祈りの時を持つことを希望した (表2)。

こういった、祈りに対する印象の変化のきっかけが何であったのか問うた結果、授業等の座学で学ぶよりも、学生たちが実際に祈りにふれていく過程の中で変化していったことがわかる (表3)。

表1 祈りを肯定的に受け入れた時期

	幼児教育心理学科	国際教養学科
初めから	1%	5%
4～5月	9%	10%
5月～6月	48%	45%
6月～7月	19%	22%
7月	1%	0%
回を重ねるごと	7%	10%
まだ	12%	8%
その他	3%	0%

表2 授業開始時の祈りの賛否

	幼児教育心理学科	国際教養学科
賛成	97%	91%
反対	1%	0%
どちらでも良い	2%	9%

表3 祈りに対する印象変化のきっかけ

	幼児教育心理学科	国際教養学科
授業前やキリスト教の時間の祈りを通して	70%	81%
授業	30%	16%
自分の成長	0%	3%

(2) 他宗教の祈りとの比較

キリスト教学入門の授業時において実際に祈りにふれることによって、受講生の中で祈りに対する意識の変化が生じたものであるとしても、これまでの人生の中でも祈りにふれる機会はあったはずである。日本文化の中にはお盆やお彼岸、初詣など、若い時から宗教的なものにふれる機会は多くある。

『第11回学生宗教意識調査報告』によると、2012年に初詣に行った学生は52%、お盆にお墓参りに行った学生は54%にのぼり⁶⁾、約半数の学生がこの1年の間に宗教的なものかに対して手を合わせ、祈ったと言える。

受講生が、これまでも祈りにふれる機会がありながら、4月当初のように祈りに対して否定的な意識を持っていたのはなぜだろうか。また、3か月後にはほとんどの学生が授業時の祈りを肯定的にとらえるようになった理由は何だろうか。これらの理由を考察していきたい。

1) 他の宗教の祈りに対するイメージ

入学以前に抱いていた祈りそのものに対するイメージを自由記述で答えてもらった結果、次ページの表4のようであった。

「神聖なもの」、「安心感を得られるもの」、「心を静めるもの」、「優しそう」「厳か、清らか」といった肯定的な意見も見られる反面、「嫌だ」、「洗脳」、「危ない」、「怖い」、「宗教は悪」といった宗教自体に対する嫌悪感を表しているものも見られる。また、「無関係」、「外国のイメージ」や「非日常」、「未知」といった、自分自身と遠いイメージを持っていることをうかがわせる様子も見られる。

祈ること、それ自体ではなく、宗教自体に対する嫌悪感や拒否感が、大学入学直後の祈りへの否定的な捉え方につながっているのかもしれない。

表5には、入学以前に祈ったことのある具体的な事柄をまとめた。「平和」や、「地震関連」は当てはまらないが、「受験合格」や「自分や家族の健康」、「恋愛成就」、「家内安全」、「夢の成就」など、基本的に自分自身や比較的自分に近い関係にある人についての願い事を祈る傾向が見られる。祈りとは、自分の願いをきいてもらうもの、叶えてもらうものであるという意識があるのだろう。

表4 入学前に抱いていた祈りのイメージ
(延べ人数)

	幼児教育 心理学科	国際教養 学科
願いを叶えるもの	13	3
無関係	4	10
困った時のもの	3	8
堅い	7	3
嫌だ, 危ない, 洗脳	9	0
意味なし	5	0
暗い, 怖い	3	2
神さまを信じている人のもの	2	3
落ち着きを得られるもの	3	1
神聖	3	0
自分中心のもの	2	1
言葉を唱える	2	1
習慣	2	1
宗教そのもの	2	0
偏見	2	0
生活の一部	0	2
安心感を得られる	1	0
教会	1	0
外国のイメージ	1	0
流れ星	1	0
良い気はしない	1	0
未知	1	0
心を静める	1	0
疑問	1	0
感謝を捧げるもの	1	0
神社	1	0
弱い者のもの	1	0
半信半疑	1	0
優しそう	1	0
気休め	0	1
厳か, 清らか	0	1
違和感	0	1
非日常	0	1
先祖に祈る	0	1
宗教は悪	0	1
大切	0	1
幸福	0	1

表5 入学以前に祈ったことがある事柄
(延べ人数)

	幼児教育 心理学科	国際教養 学科
受験合格, 学業成就	64	33
自分や家族の健康	46	24
恋愛成就	11	7
家内安全	12	6
試合に勝てるように	5	2
金運	0	4
友だちのこと	1	3
交通安全	3	0
平和	2	1
感謝	2	0
先祖に報告	1	1
夢の成就	1	1
安産祈願	1	1
お祓い	1	0
地震関連	0	1

2) キリスト教の祈りのイメージ

後期が始まった9月の第1回目の授業時に、再びアンケートをとった。学生たちは7週間の夏休みがあり、その間は祈りから遠ざかっていた。

それだけの時間を経ているにもかかわらず、キリスト教の祈りに対して持っている印象は、ほぼ肯定的なものであり、否定的にとらえていたのは幼児教育心理学科で1%、国際教養学科で0%であった(図5)(図6)。

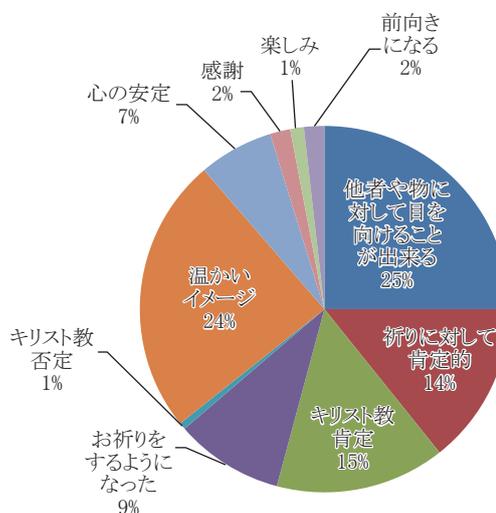


図5 キリスト教の祈りのイメージ (幼児教育心理学科)

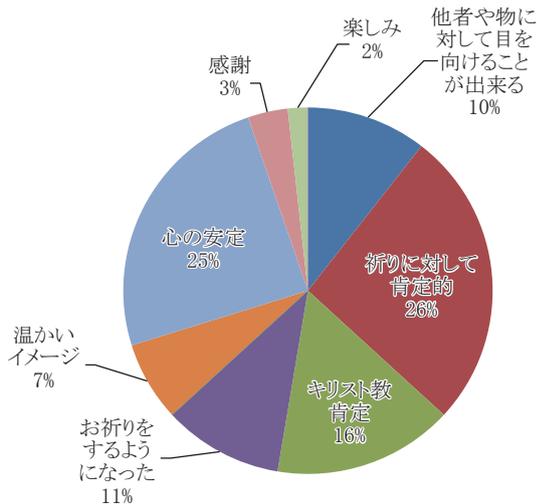


図6 キリスト教の祈りのイメージ (国際教養学科)

いずれの学科も、祈りに対して肯定的なだけでなく、「他者や物に対して目を向けることができる」ようになったことや祈りに対して「温かいイメージ」を抱くように変化したのは、大学入学時には感じていなかった祈りへの印象であり、大きな変化と特徴であると言えるだろう。

実際に出席カードに書かれていた内容では、入学以前にも祈っていたように、自分に近い関係にある者の健康をいたわるものもよく書かれていた。それは親族やペット、学外の友人についてもあれば、同じ学科内の友人の健康をいたわるもの、学科内の友人の関係者、たとえば友人の彼氏や友人の友人、友人の家族について祈りたいというものもあった。

例を挙げる。「友人の友人が事故で意識がないそうです。手術が無事おわりますように、はやく元気になりますように。」(原文ママ) というものがあって、その週は友人の友人のためにも祈った。すると翌週、祈りを依頼した学生から「お祈りありがとうございました。意識戻ったみたいですよ♡」(原文ママ) といった祈りへの感謝と事後報告がコメント欄に書かれていた。このように、祈りに対する感謝やその後の様子の報告をコメントカードに書くケースもよく見られる。

また、「最近皆忙しそうでいららしている人が多くなった。皆にいやしがありますように。」(原文ママ)、「テストみんな最後までやりきって悔いのこりませんように！」(原文ママ)、「みんなが室内と、外の温度差でかぜをひきませんように！！」(原文ママ)、「やっぱり大学の友達はいいです。みんな優しいし、あったかいです。これからもみんな幸せでいられますよーに！！」(原文ママ)、「最近、バイトなどで忙しい毎日を送っている人が多く思います。忙しい中でも自分や人を大切にできます

ように、お祈りお願いします。」(原文ママ)、「今、多人数で1つの目標に向けて活動していますが、多人数だけに思ったようにいかないことがあります。今はそういうことがあっても最後はその全員が『やってよかった』と思える活動になりますように。」(原文ママ) といったもの、またほぼ毎週「幼心のみながそれぞれお祈りしていることがありませんように」(原文ママ) といったような、クラス内の「みんな」のことを祈るものも多くあった。

幼児教育心理学科の場合、資格取得のため多くの学生が共通の授業をとっているケースが多く、必然的に小テストなどの共通の課題を抱えるため、そういった課題をみんなで乗り越えることができるようにという祈りは多くみられた。図5の幼児教育心理学科の「温かいイメージ」が国際教養学科のそれよりも3倍強多いのは、そういった同じ目標を持った仲間同士が似た境遇の中であり、互いに励ましあう祈りの影響が大きいのであろう。

しかし一方で、仲間うちだけではなく、時には大きなニュースになった事柄や、授業で扱ったストリートチルドレンに対する事柄、東日本大震災の被災地および被災者について祈って欲しいということもあった。

さらには、「暑い中一生懸命働いている人もいます、その人たちが体調悪くありませんように。」(原文ママ) といったものや「同じ年齢で仕事を頑張っている人がいます。その人たちが安全で元気でいれますように。」(原文ママ) といった自分たちとは違った環境にある人たちのための祈りや、道端で見かけた子どものため、おばあさんのために祈りたいといったこともあった。

誰かのことを思う祈りが、より広い視点をもって物事を見、心にかけることにつながっていると言えるのではないだろうか。「今日もお祈り長かったですⁱⁱ⁾。みんなのことを祈っている人はすごいなあと思いました。この前、駅のホームでたばこがおちていて私は『きたないなあ』と思っただけだったけど、歩いてきた人が無言で拾っていたのを見て、こんな人がいるから、周りの人が気持ちよく生活ができるんだなと思って感動しました。」(原文ママ) や、「今日もおいのりをきいて皆がいろんな事になやんでいる事をしりました。(中略) 皆のなやみにも気づいてあげられる友達になりたいです。」といった反応が返ってきたことがある。そして、こういった他者のための祈りを通して、学生たちの中には「広島女学院大学に来てよかったです！」(原文ママ) という反応を見せる学生もいた。

なお、キリスト教以外の祈りで多く見られた「学業成就」や「恋愛成就」に関する祈りはあまり見られず、「家

内安全」,「金運上昇」,「先祖に報告する」といった祈りは、まったくみられなかった。

以上のことから、学生の中で、祈りが自分の願いや望みを叶えてもらう自分本位なものではなく、自分以外の人に目を向け、心を寄せようとする、キリスト教主義教育が目指す倫理観（隣人愛）の涵養に一定の効果があったということが出来る。

4. まとめ

これらのことから、学生たちは祈りを通して自分以外の人に心を寄せる意味や喜びを知るようになったと言えるだろう。このことは、学則第一条にある「基督教主義に基づいた教育による霊性の発達」が、誰かを思う自由祈禱にふれることによって有効であると言えるだろう。

また祈りによって、キリスト教に対するイメージの変化もみられた。

「人生に悩んだ時に、どのような人に相談したいか。①仏教の僧侶、②キリスト教の牧師・神父・シスター、③神社の神主、④テレビに出るような霊能者、⑤街の占い師、⑥ネット上で相談に回答してくれる人、⑦その他の宗教家」を問うた結果、幼児教育心理学科、国際教養学科共にキリスト教の牧師・神父・シスターに相談する率が全国平均⁷⁾に比較した際に高かったことは(図7)、キリスト教主義教育によって学生たちがキリスト教の精神を知り、さらにそのことによって、少なくともキリスト教に関しては宗教に対する警戒心や嫌悪感を和らげるといふ影響を与えていると言えるのではないだろうか。

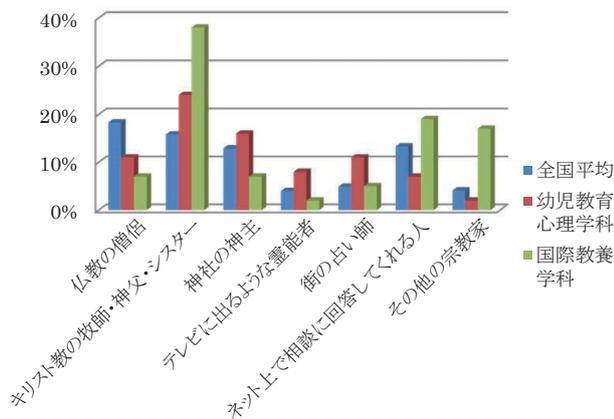


図7 人生に悩んだ時の相談相手

また、「祈り」について実践的に学ぶプロセスを通じて「この学校に来て良かった」と思えるようになった学生が一定存在することは、以上の調査から明らかである。このことからキリスト教主義大学が、その学校の特色として「キリスト教主義」を打ち出すことに肯定的な効果があることが推測されるが、これに関しては今後の研究の課題としたい。

注釈

- i) 「本当に」「まことにそうです」といった意味のヘブライ語で、祈りの最後に唱えられる言葉。
- ii) 「祈りが長かった」というのは、決して否定的な意味だけではない。祈りが長いことについて、「今日も皆のたくさんのお祈りの言葉が聞けてよかったです」(原文ママ)、「毎時間、おいのりがたくさんあって、みんなすごいな、と思います」(原文ママ)、「今回もお祈りがたくさんあって、毎週心があたたまります」(原文ママ)、「みんなのたくさんのお祈りがきけて、朝から心がおだやかになりました」(原文ママ)、「今日もたくさんのお祈りがきけてよかったです」(原文ママ)といったコメントも見られる。これらのコメントからは、たくさんのお祈りを思う祈りによって、穏やかな気持ちを得る学生や、クラスメイトの他者を思う優しい気持ちに感化されている学生も複数みられる。

引用・参考文献

- 1) 規定集, 学校法人広島女学院, p. 221.
- 2) 嶺重淑: 新約聖書における祈り—その聴許の可能性をめぐって—, 関西学院大学キリスト教と文化研究, 7号, pp. 25-43, 2006年.
- 3) たとえば, 創20: 7, 24: 26-27, 出9: 29, 王上8: 23-24, 8: 54, 代下20: 6-17, エズ9: 5-6, マタイ26: 39, マルコ1: 35, 6: 46, 14: 39, 15: 34, ルカ3: 21, 5: 16, 6: 12, 9: 16, 9: 18, 9: 28, 22: 32, 22: 42, 23: 34, ロマ10: 1, IIコリ12: 8など。パウロの場合、各書簡は最初と最後に祝福の祈りが記されている。
- 4) たとえば, マタイ5: 44, 6: 5-8, 6: 9-13, 21: 22, マルコ11: 23-25, ルカ11: 2, 18: 1, ヨハネ14: 13-14, 15-16, 16: 23-26, など。
- 5) マタイ6: 9-13とルカ11: 2-4に記されている, イエスが弟子たちに教えた祈り。
- 6) 井上順孝: 第11回学生宗教意識調査報告, 国学院大学, pp. 4-5, 2013年.
- 7) 同上, p. 9.